



乳癌と乳癌検診

Breast Cancer Screening

産業医 武神 健之

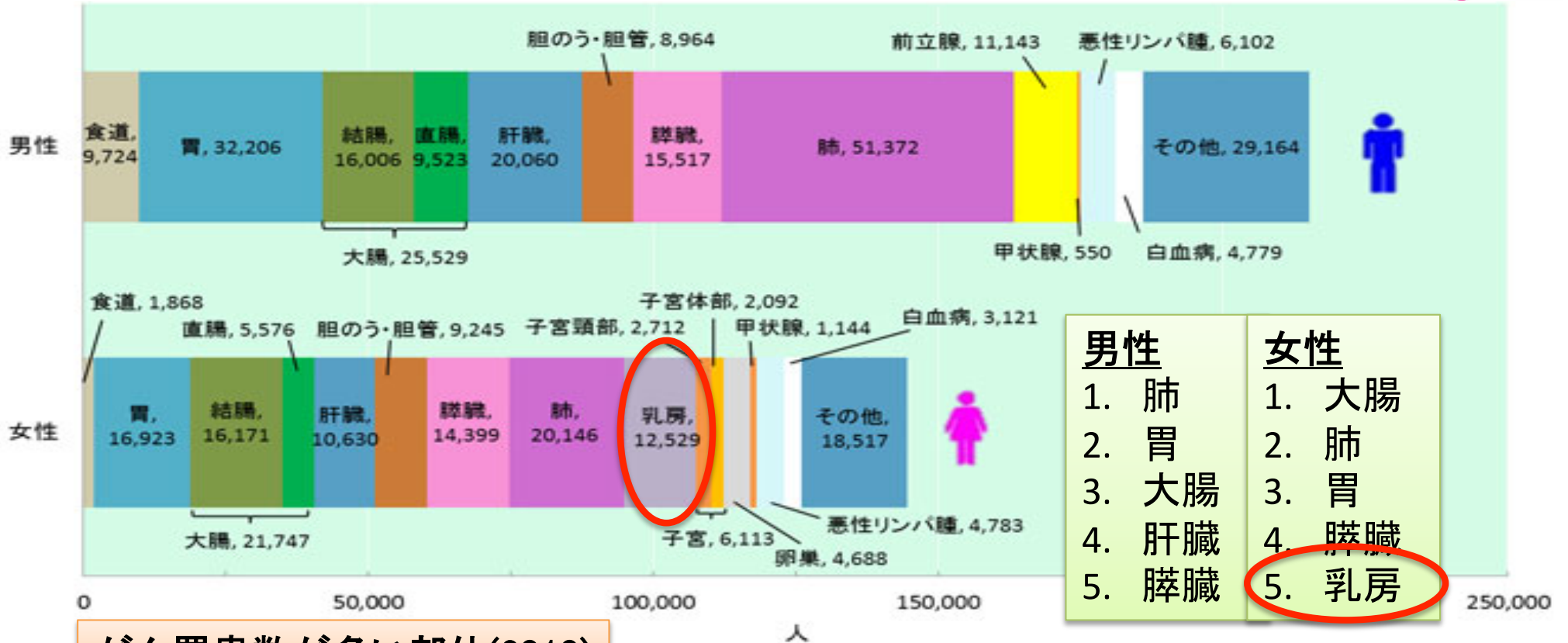
Your Company Doctor

Kenji Takegami MD PhD

For internal use only



どの部位のがん死亡が多いか



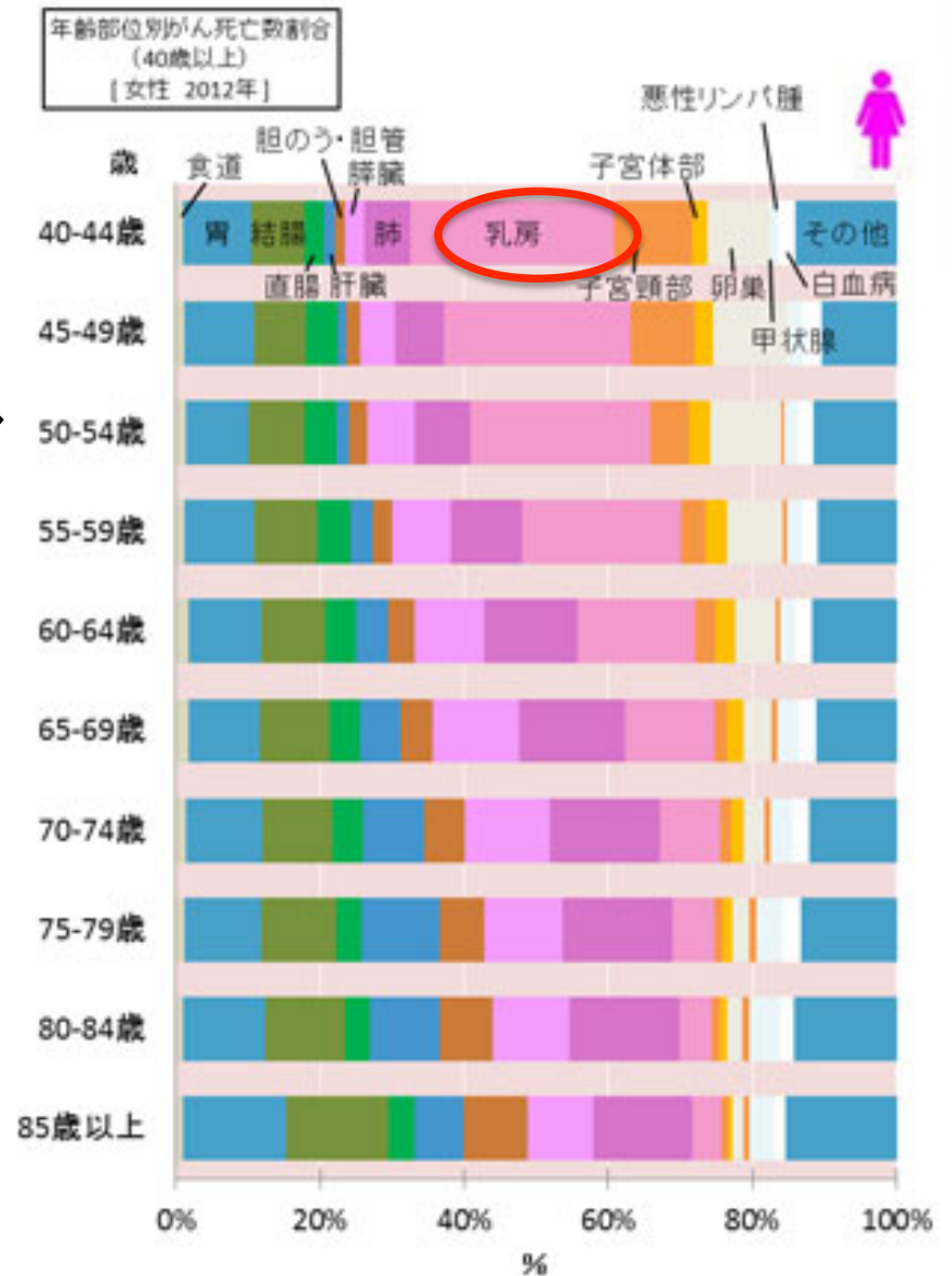
がん罹患数が多い部位(2010)

男性	女性	男女計
1. 胃	1. 乳房	1. 胃
2. 肺	2. 大腸	2. 大腸
3. 大腸	3. 胃	3. 肺
4. 前立腺	4. 肺	4. 乳房
5. 肝臓	5. 子宮	5. 前立腺

日本人女性にとっての乳がんは、なりやすい部位、第1位。がん死亡としては、第5位でけっして、多くはない。しかし...

どの部位のがん死亡が多いか、年齢による変化をみると、65歳以下の女性のがん死亡の部位は、乳がんが一番多い。

↓ ↓ ↓
**早期に
 発見する
 ことが大切！**



資料: 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター
 Source: Center for Cancer Control and Information Services,
 National Cancer Center, Japan

日本人女性の乳がんについて



- 毎年約6万人が新たに発症
- 83.3% は家族歴なし
- 55.7%は自己発見、28.4%は自覚症状ないときに検診で発見
- 2cm以下の割合は、自己発見は47.0%、検診(自覚症状なし)は71.7%と2/3以上、検診(自覚症状あり)の人は57.2%で、早期発見のためには自覚症状のないうちに乳癌検診を受診すること、もしくは、触らない癌をマンモグラフィで発見することが大切
- 腫瘍径2cm以下でリンパ節や他の部位に転移がない状態を、「早期乳がん」という。早期乳がんは、90%以上治癒することが期待できる。



乳癌検診を受けましょう

2年に1回の受診が奨励されています

- 問診票
- 視診、触診
- マンモグラフィ検査(レントゲン検査)
- 超音波検査(エコー検査)

マンモグラフィ乳がん検診受診率

1.	オランダ	88.3%
2.	イギリス	74.1%
3.	イタリア	71%
4.	イスラエル	69.5%
5.	ニュージーランド	66.9%
6.	韓国	61.2%
7.	アメリカ	60.6%
8.	日本	23.8%

マンモグラフィ検査

- 乳癌全体では見落とし率が1%以下とも入れますが、40歳代では2-3割の見落とし率とも言われます
- 50歳以上には適切
- 40-49歳では、偽陽性(正常でも引っかかる人)が98%
- 40歳以下ではマンモグラフィ検査単独は奨励されていません



超音波検査

- レントゲン被曝なし
- 検査施行者に技術の差がありますので、専門の医療施設を選びましょう
- 40歳以下では、マンモグラフィ検査と超音波検査両方の受診が奨励されています

乳癌のリスクには、コントロールできるものと できないものがあります



- 肥満（とくに閉経後）
 - 10年以上にわたるエストロゲンホルモン注射
 - 11歳以下での初潮
 - 55歳以上での閉経
 - 30歳以上での初産、または、出産経験なし
 - 喫煙
 - アルコール
 - 家族歴
 - 性別
 - 人種
 - 年齢
- ✓ 症状がなくても、乳がん検診は定期的に受けましょう。
 - ✓ 厚生労働省では、40歳以上は2年に1回の乳がん検診を推奨しています。